

平成21年度第2回千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：平成22年2月3日（水） 午後1時30分～3時20分

2 場 所：郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、野村副会長、今井委員、白井委員、本郷委員
（千葉市史編集委員会代表）三浦茂一委員長
（事務局）

河野生涯学習部長、宇留間生涯学習振興課課長、
倉田郷土博物館長、殿塚副館長、若菜学芸係長、
築瀬副主査、市史嘱託職員（彦坂、大関；記録係）

4 議 題

- (1) 平成21年度事業報告について
- (2) 今後の事業予定について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 平成21年度事業報告について
事業内容について承認された。
- (2) 今後の事業予定について
普及事業（市史研究講座・各古文書講座・ニューズレター）、刊行事業（『千葉いまむかし』24号）、研究会の開催予定などについて検討を行った。今後刊行物を計画している『歴史読本』の企画、及び『千葉市史 史料編 近現代』の編成案などについても意見が出された。
- (3) その他

6 会議経過

午後1時30分、委員6名中5名着席。安田委員は欠席。

司会（殿塚副館長）より、配付資料についての説明があり、続いて設置要綱第5条第2項の規定により、この会議が成立していることが告げられ開会。

河野生涯学習部長と会長の挨拶に続いて議事に入った。

議題1 平成21年度事業報告について

平成21年度の市史編さん関係の事業について、史料調査収集・整理事業、『史料編近現代』編さん関係事業、市史等の刊行事業、市史編さん普及事業、市史研究事業、市史協力員の活動の6つに分けて若菜係長より報告を行った。

<質疑応答>

吉田会長：まず史料調査収集・整理事業について、何か意見があれば。

野村副会長：矢作町の加藤博仁氏収集資料は、様々な形で利用できるかとあるが、たとえば今後展示などで使う予定はあるのか。

事務局（若菜係長）：4階のリニューアルに伴い、プラネタリウムのあった場所で近現代の展示を行う予定だが、そこで絵はがきや地図などを使うつもりでいる。

野村副会長：意外と興味がある人も多いかも。新聞資料の収集とあるが、これらについてはどこかでみる方法があるのか。

事務局（築瀬）：目録を入力したデータは、まだ市史のパソコンの中にあり、公開はできない。新聞のコピーを製本したものはあるので、館に来ればみることはできる。

野村副会長：もっとPRすればいい。

事務局（築瀬）：1700冊近くあるので、すぐには難しいと思う。

吉田会長：近現代関係で収集した資料は、近現代史料集の編さん準備のプロセスの中で、閲覧要請があれば許可するのか。

事務局（築瀬）：それについてはできる。

野村副会長：新聞資料については、パソコンにデータがあるということだが、PDFの状態なのか。

事務局（築瀬）：コピーをとじてあるだけの状態。PDFにしてネット上で公開するという事も考えられるが、冊数が多いためすぐにはできない。細目録がデータになっているということである。

吉田会長：新規に受け入れた史料の調査や継続していつている調査に伴って現物の寄贈・寄託を受けたり、撮影をしたりとかなり情報が増えているはずだが、これまでも問題になってきた収蔵スペースの問題はクリアできているのか。

事務局（築瀬）：スペースは依然厳しいが、寄贈してもらうものも一部ある。星久喜の石原家文書など、あまり点数が多いものは、受け入れるかどうか所蔵者と相談していくつもりである。

吉田会長：新聞の複写資料はどこにストックしてあるのか。

事務局（築瀬）：市史編さん室の入り口前と、一部は2階に置いてある。

吉田会長：『史料編近現代』の5巻編成は、1巻増えるということだが、財政状況に照らして可能なのか。あくまでも部会で5巻編成にしたいという希望が出ているだけなのか。

事務局（倉田館長）：4巻編成ではあるが、そもそも第4巻を2分冊にするという話であったので、5巻編成であっても内実は変わらない。

吉田会長：千葉市の方は予算が増えるがいいのか。

事務局（倉田館長）：これからの交渉次第でできると考えている。

今井委員：近現代資料収集に幕張町合併関係資料調査とあるが、対象となっているのはそれぞれどういった家なのか。どういった形で合併の時に関わっていたのかを知りたい。元町村長などを勤めた家なのか。生浜でも町村長をしている家ですら

なかなか資料が出てこないのだが。

事務局（彦坂）：志村家は10代目幕張町長、長沢家は11代目幕張町長。市東家は幕張5丁目の有力者で、埋立関係でも漁業組合の交渉を担当されたということで、志村家などとの関係があり、合併についてもお話を伺っている。資料については、志村家・長沢家については資料の有無を確認していただいている状態、市東家については資料はあるが確認していただいている状態。いずれも資料があれば連絡をいただけるようお願いしている。

今井委員：漁業関係の資料があるのか。

事務局（彦坂）：あるらしいと聞いている。市東家については埋立関係については三井側の図面などの資料を少し既に寄贈していただいている。

吉田会長：それらの家に近世文書がある可能性はあるのか。

事務局（彦坂）：蔵もないし、確認していないのでわからない。

吉田会長：『史料編近現代』の構成案があるが、実際にはどういった進行状況なのか。

事務局（築瀬）：昨年度から今年度まで、構成案の検討を進めてきた。全体の大まかな項目を作成した段階である。それぞれの項目にどういった資料があるかなどはまだ検討していない。

吉田会長：『史料編近世』を今井委員のもとで作った人間からの希望をいえば、こうした项目的な構成も大切だが、たとえば第2巻第1章など、一方で『史料編近世』や『千葉市図誌』でやったような旧村単位での構成を近現代にも活かさないかと思う。現代まで含めた地域の変容といったものを入れた史料集を編さんしていくということを、部分的にでも工夫できないのか。

事務局（築瀬）：現在の構成はほとんどの部会員が千葉県史に関わっていたこともあり、千葉県史がベースとなっている。そうした希望があったということで近現代史部会に示したいと思う。

三浦委員長：近世の村単位の形で作った『史料編近世』はいいと思うが、あれを近代でやるとしたらどうすればいいか、むしろご指導いただきたいとも思う。この場合、第1巻の範囲であればできる可能性はある。現在のものがありきたりな構成であることは否めない。

吉田会長：基本的には時代・時期で区分していて、政治・文化や社会についてそれぞれの時期の特徴を資料からみるというオーソドックスな作りでわかりやすい。一方で、個々の「地域」の社会が必ずしもこの時期区分に応じて変化しているとは限らないのではないか。それぞれに応じた固有の歴史を、全体的なものとは別に1冊でもいいから編集するのは重要であると思う。

三浦委員長：資料のあり方に規定される話である。また、そうした固有の歴史も全体をみておかないとどこを取り上げるべきかわからず、堂々巡りになってしまう。全体的なものがある、そのうえで固有のものがあるとよい。

吉田会長：そうすると、それを事業計画の中でやることは可能なのか。『千葉市図誌』の倒叙法をもっと活かしてほしいと思う。

今井委員：たとえば土気のように昭和45年に初めて合併するところは、どういう位置づけになるのか。昭和30年代に生浜・椎名・誉田・幕張なども千葉市に合併され

るが、その前はどうやって維持してきたのか、また地元の意識も考える必要がある。そうした千葉市以前について、どこまで評価してくれるのかと地元としては思う。

三浦委員長：町村「史」か「誌」というものになるか。

今井委員：『町村合併史』などは2部構成でやっていたと思うが、そういった編成を取らないと無理ではないか。

三浦委員長：たしかに土気などはそうである。更に別巻を作る必要があるか。

今井委員：一方で、それだけ資料があるのかという問題もある。

三浦委員長：それが未だ把握しきれていないため、現在の構成になっている。

今井委員：生浜でさえ、今の町役場の建物ができたころぐらいからの資料しかない。

吉田会長：飯田でもそうだが、気をつけないといわゆる「大〇〇史」になってしまう。

三浦委員長：予算との兼ね合いもあるが、5巻までとは別に考える必要がある。

吉田会長：これまでの構成案をゼロに戻すということではない。

三浦委員長：市内の「地域」史を考える必要がある。

事務局（倉田館長）：その場合、「地域」とはエリアとしてはどの程度のものが考えられるのか。

今井委員：『図誌』上巻のはじめに町村ごとに載せたようなエリアが考えられるのではないか。あの固まりが欲しいという気がする。ただ、それが政治行政部分だけなのか、他のカテゴリもその単位でできるのかは疑問。

吉田会長：究極的にいえば、江戸時代にまでさかのぼれる「村」が「地域」であると思う。基本的な市史編さんのスタンスは個々の小さい村を念頭においた地域の歴史を基礎として考えるべきではないか。

三浦委員長：第1巻でどうするか考えようと思う。

吉田会長：個々の地域の歴史をみるうえで、全体的なものを参照するためにも現在の案は崩さない方がよいと思う。

三浦委員長：やはり5巻とは別にすることになるか。

吉田会長：「個別地域編」というようなものになるかと思う。できれば近現代だけではなくて、極端に言えば考古までさかのぼったものが作れるとよいが。

三浦委員長：『図誌』のような考えでやるとすれば、既に『史料編近世』が出ている現状では難しいのではないか。

本郷委員：近現代編の編集を進めていけば、また自ずと出てくる問題ではないのか。

三浦委員長：当初から、調査をして地域の実態に即した資料が出てくればできるとは話していた。再度部会で話し合ってみようと思う。

吉田会長：議題1の後半についてはどうか。各講座に対してのアンケート結果報告が配布されているようだが、これについての説明はあるのか。

事務局（築瀬）：例年配布している通りのものである。

吉田会長：アンケート結果の内容からどういう点が学べるのか。

事務局（築瀬）：研究講座については市民会館の小ホールを使ったことで、これまで以上の人数が参加できた。来年度も使う予定である。これについてはある程度好評であったことがわかる。

白井委員：今年度のアンケート結果は来年度の事業の参考になるものだと思う。次の議題になるが、来年度研究講座が1日に3回になっている。アンケート結果では1日1、2講座がいいという意見が多いがどうなのか。古文書講座についても、有料にしてもっと回数を増やすことができるのではないか。

事務局（築瀬）：古文書講座は、資料代は取れると思うが、講師料をそこから負担するのは難しい。研究講座については、予算の都合や運営方法からアンケートの結果通りにはできない。講座の内容については関心のある時期などをできる限り参考にしたいと思う。

吉田会長：古文書講座はかなり好評だし、受講者のすごいエネルギーを感じる。

野村副会長：せっかくアンケートをとっているのだから、白井委員のいったことも含めて、テーマなどもっと活かす必要があるのではないか。出席者も多かったのだから、編さんを市民に周知するという意味でも講座を活かしてほしい。

吉田会長：市史研究事業についてはどうか。回数をみると、割と活発になってきていると思う。市史研究会を主催しているのはどこなのか。

事務局（築瀬）：博物館市史編さん担当が主催している。

吉田会長：では、議題2にうつる。

議題2 今後の事業予定について

今後の事業予定について、計画している刊行物とその他の活動についての概要を説明したうえで、『千葉市史史料 近現代編』『歴史読本』の進め方等を若菜係長より説明した。

<質疑応答>

吉田会長：最初に普及事業について何か。

野村副会長：市史研究講座は前後期の2回が予定されているようだが、タイトル未定というところがある。先ほどのアンケートにあったような市民が望んでいるものができる講師にお願いしているのか。

事務局（築瀬）：そうしている。

野村副会長：講義内容などアンケート結果をもっと活かして、講師を選んでいった方がよいのではないか。

事務局（築瀬）：これから、おおよその内容を講師と相談していく。

野村副会長：アンケートの希望に沿うような内容になることを希望する。

白井委員：アンケート結果をみると、高齢の方も多いうだ。そうなると研究講座の1日に3講座は、予算の都合もあるとは思いますが難しいのではないか。質疑が1日通した最後にだけ設けられているが、途中退席を可能にして部分的に受講してもよいように、質疑は各講座後に設けてもよいのではないか。

事務局（築瀬）：検討したい。

本郷委員：1日に3講座なのはそもそもどうしてなのか。そういった希望があるのか。

事務局（倉田館長）：より多くの人に参加してもらいたいということと、会場を1日借りるということで、できる限り有効に使いたいということから設定した。

吉田会長：同じ市の施設でも、小ホールの会場費がかかるのか。

事務局（倉田館長）：費用はかかる。

野村副会長：照明など、小ホールの設備について費用がかかるのか。

事務局（倉田館長）：別の財団が運営していることもあり、費用がかかる。

吉田会長：普及事業の計画をみると、すべてアンケートに逆行しているようにみえる。

本郷委員：アンケートにある郷土博物館の歴史講座とはどういう関係なのか。

事務局（倉田館長）：そちらについては市史編さん担当とは全く別のものである。

事務局（若菜係長）：本年度は郷土博物館の講座室と千葉経済大学を使って行った。

吉田会長：大学は無料だったのか。

事務局（倉田館長）：無料だった。

吉田会長：予算が削られたとあって、企画を縮小するとどんどん袋小路に落ち込む気がする。本年度の40周年記念研究講座や市史研究講座は、全体的なテーマを設けたが、来年度はそうした一つのモチーフのようなものは作らないのか。どんなテーマでやっていただくのがいいのかということも含めて、市民の要望をどう織り込んでいくのか。

事務局（築瀬）：研究講座の前期は戦国時代、後期は近世・近現代と時代で大きく分けてはいる。適切なタイトルについてはこれから考える。

吉田会長：研究講座はやはり若い人でも1日に3講座は大変だと思う。入れ替え制にしたりということとはできないのか。

白井委員：より多くの人に参加してもらいたいというのであれば、各講座ごとで応募してもらえばいいのでは。

吉田会長：全講座通して受講する人と講座毎に受ける人と席を分けてみてはどうか。

事務局（倉田館長）：検討する。

事務局（築瀬）：テーマをある程度そろえて、1日通してききたくなるようなものを組んでいくつもりである。

野村副会長：すぐに予算の問題が出るのでは編さん会議の活躍の場がない。なんとか知恵を絞りたいが。

吉田機長：大学との連携や、民間のカルチャーセンターとの連携は考えられないか。

事務局（倉田館長）：可能であると思う。検討したい。

吉田会長：朝日カルチャーとかは千葉市では行われていないのか。

野村副会長：朝日やNHKがある。

事務局（倉田館長）：大学とは連携しやすいと思うが、民間のものともどうできるかは今後検討したい。

吉田会長：やはり古文書講座などになるのか。

野村副会長：あとは話題性のあるものなら民間とも連携できるかもしれない。

吉田会長：ニューズレターが年1回になったのが納得できない。今は1回出すのにいくらくらいかかるのか。

事務局（築瀬）：片面モノクロで、完全原稿で入稿するので五万円前後になる。

野村副会長：デザイン料がかからないのでそれでできるのだと思うが、その分読みづらさは否めない。

吉田会長：年10万あったものが5万になったということか。それとも、全体的に予算が少なくなって、結果的に切れるところということで減っているのか。モノクロで紙質をおとしてもいいから最低年2回にしてほしい。本当はもっと回数を増やしてほしい。

事務局（若菜係長）：紙質なども含めて検討する。

吉田会長：研究活動の「江戸と千葉」は来年度はすべて日程が決まっていたはずだが。

事務局（築瀬）：日程も報告者も決まっている。

野村副会長：『歴史読本』はたしか3年ごしになるが、編集方針や刊行計画案はあるが、実際にいつごろ出すのかなど決まっていないのか。

事務局（倉田館長）：決まっていない。予算のお願いはしているが、できる状態ではない。

野村副会長：A5版100ページ前後でこれだけのボリュームが入るのか疑問である。文章だけでなく図版も入るはずなのだし、再度検討した方がよいと思う。また市民を対象とした読本であれば、各時代ごとに古代なら貝塚であるとか、何かエポック的なものをある程度入れた方がよいと思う。予算がないから難しいのなら出版社に受注して作ってもらってもいいのではないか。アンケートをみても市民はかなり興味があってお金を払ってもいいとしている。一部市で買い上げても、それ以外は出版社にということの検討も必要なのではないか。こうした歴史読本で他の市町村のものがどれくらい売れているのかはわからないけれど、相当売れると思う。こうしたことを考えないといつまでも出版できないままである。以上、3点を検討してほしい。

吉田会長：内容を考えると、歴史講座を受講されているような熱心な方に読んでいただくのであれば、今回あげられた内容の各項目で1冊くらいにはなると思う。プロジェクトチームを作って編集するということだが、それはできているのか。

事務局（築瀬）：まだできていない。

吉田会長：いっそ野村副会長が中心でやった方が進むのではないかと思う。基本的に我々はどう考えればいいのか。このままでは同じことを毎年繰り返しておしまになってしまう。本当に作るつもりなら何かしら進むべきであるし、相当難しいならそもそも議題にあげるべきではない。

事務局（倉田館長）：今後内部でもっと具体的に内容・執筆者など考えていきたい。ただ予算の問題があるため、こちらのスタンスが消極的ではあった。

吉田会長：事業仕分けではないが、本当に厳しいのなら今年度は無理ということで議題にあげないで、議題にあげるのならどういった方向で先に進むのかということをもっと示すべきである。現状では今日ここにきている人が動いていいのかどうかさえわからない。もう少し具体的にしてほしい。

事務局（倉田館長）：基本的には動く方向で考えたい。そのうえで刊行の方法についても考えていきたい。

野村副会長：まず市史編集委員会でプロジェクトチームを編成してはどうか。内容はそれで自ずと変わってくるはずである。そのうえでここで構成案について検討しろといわれればできるが、このままでは進まない。

吉田会長：次回の編さん会議では次の方向性を少しでも示せるようにしてほしい。他には何かあるか。『千葉市史料』（仮）は史料のまとまりがあるとか、翻刻が進んでいるとか、ある程度目処が立っていれば経費をつけてくれるのか。

事務局（築瀬）：そうではない。

本郷委員：刊行物が3つあるが、その優先順位はどうなっているのか。

事務局（倉田館長）：我々としては、まず近現代の史料集を作ることを第一としたい。

吉田会長：それは予算がついているということか。

事務局（倉田会長）：次期五ヶ年計画にはのっていた。現在はそのための調査ということだったが、刊行には資料調査が間に合わないだろうということである。

野村副会長：予算の審議は終わっているはずだが、かなり厳しいのか。

事務局（倉田館長）：かなり厳しいといわざるを得ない。

野村副会長：市史編さん関係等について他の政令市の予算を調べるとかしないと財政局への説得力がないのではないか。

吉田会長：少なくとも現状では人口十万前後の飯田市の何分の一かしかない。

本郷委員：財政的に厳しい時こそ、文化予算は他に比べて市民サービスの面で効率がいいはずである。文化予算の位置づけを再度考えてもらう必要がある。

吉田会長：建物を建てるわけでもないし。

本郷委員：他のことに比べたら講師料など少額だし、市民に向けてのサービスをいろいろ提供できるという点で非常に効率がよいはずである。『歴史読本』もそれをベースとした講座などと連動させるなど、もう少し考えてもよいのでは。

吉田会長：以上で議題2を終了し、議題3にうつる。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3について、何か。事務局の方からは何か。

事務局（若菜係長）：特にない。

吉田会長：では、以上で議事を終了する。

事務局（殿塚副館長）：以上で平成20年度第2回千葉市史編さん会議を終了する。

*会議終了後、倉田館長より編さん会議の条例化の報告があった。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231